

具体策：1 一流のスポーツや文化、芸術を育む環境づくり

R4 実現

② 伝統工芸品に関わる人材育成から輸出の振興に至る一気通貫型の「伝統工芸文化継承・産業振興プログラム」の実施

現状と課題(R4.2月現在)

現状

- 景気の動向や生活様式の変化、安価な輸入品の増加等により、ピーク時に比べ販売額や事業所・従事者数が3割程度に大きく減少
→技術継承・人材育成及び新商品開発や新たな販路の開拓等が課題
〔販売額〕H2:433億円 → R2:114億円(約26%)
〔事業所〕S62:868 → R2:399(約46%)
〔従事者〕S63:4,971人 → R2:1,505人(約30%)

課題

- 新商品開発や新分野への参入、海外を含めた事業展開や魅力発信の充実等による新たな需要の獲得
- 伝統技術の継承、デザインやマーケティング等の体系的な修得などの人材育成、職人の技術向上と活躍チャンスの提供、人材確保
- 産地ごとの課題やニーズに沿った施策の展開や、国や地元市、外部機関等との連携強化による支援体制の構築

R3年度の取組

- 産地組合や関係団体、国・県・市町等が連携し、「KOGEIミライ会議」や「企画部会」、事例視察を実施のうえ、伝統工芸振興の取組みをまとめた「伝統工芸文化継承・産業振興プログラム」を策定
【「伝統工芸文化継承・産業振興プログラム」推進事業 300万円】
【とやま伝統工芸REAL & EC展示販売事業in China 2,100万円】

R4年度の取組

- R3年度に作成したプログラムに基づき、必要な取組みを実施する。
【伝統工芸ミライ創造事業 1,016万円】
【とやま伝統工芸プロモーション戦略事業 1,050万円】
【とやま産品REAL&EC展示販売事業in China 2,300万円】

ロードマップ

取組内容

- 「伝統工芸文化継承・産業振興プログラム」に基づき、人材育成から輸出の振興まで、各段階に応じた支援を実施する(伝統工芸ミライ創造事業、とやま伝統工芸プロモーション戦略事業、とやま産品REAL&EC展示販売事業in China 等)。

	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	取組主体
伝統工芸文化継承・産業振興プログラム	【現状】個別施策の実施 技術継承 新商品開発 販路開拓 等	■ 施策・課題の整理 第1回KOGEIミライ会議(6/11) 県内事例視察会(7/16) 企画部会(8/18) 第2回会議(11/5) 第3回会議(3/8)	■ プログラムとしての実施(段階に応じた一気通貫型の支援) ①技術継承・人材育成(技術向上)、確保(活躍チャンスの提供) ②新商品開発(新分野参入、異業種連携等) ③販路開拓・魅力発信(見本市出展、海外展開・輸出促進)			産地組合 事業者 関係団体 県、地元市 国、外部機関